

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 文学部の理念と目的を共有化し、適切性を点検・検討するため全教員による会を定期的開催する。	→会の開催実績と記録	B	B	/	/	/
2. アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを含め、文学部の理念と目的について、教員・学生への周知徹底を図る。	→学生による授業評価アンケート等における認知度調査	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの作成の準備を開始し、文学部の理念と目的の周知に努める。	→ →	/	/	/	/	/

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを目的とする大学の理念・目的のもと、人間存在とその営為を明らかにする専門的能力を涵養し、豊かな人間性を育み、現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、高度な専門性と深い教養に基づく洞察力を併せ持った人間を育成する。 (説明) 上記の文学部全体の理念、目的、並びに各学科ごとの理念、目的については、2003年度の学科再編の議論の中で、従来より文学部が掲げてきた理念、目的と伝統を踏襲したものである。学科を横断する共通の目標についても設定されている。以上は教授会においても合意を得ている。
	小項目0.0.2
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明) 定期的な検証はおこなっていない。執行部教員によって、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーのあり方について議論を開始した。教員全体と議論を進めるための準備作業であるとともに、定期的な検証システムについても考えた。
その他	

## 《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

## ◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆ その他 (自由記述)	本年度執行部はディプロマ・ポリシーの原案を提示し、次期執行部に申し送った。あわせてカリキュラム・ポリシーも次期執行部で作成し、執行部会、学部委員会で議論したのち、教授会で審議するよう申し送った。2011年7月の確定、公表を目標としている。
-----------------	---

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの公表に向けて準備が進んでいます。学生による授業評価アンケートにおいて、認知度についての結果がどう出るのか注目されます。

##### 【学内委員】

○理念と目的の共有化のためにさまざまな取り組みが行われていることは評価できます。ただ、その成果を確かめることが重要ですから、その方法についても考えていただきたいと思います。

○学科が多いにも関わらず、まとめることは評価出来ます。学生への周知が期待されます。

○本項目は、理念・目標の項目です。従って、小項目0.0.2、0.0.3、自由記述欄の記述におけるアドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーについては、それぞれ「5学生の受け入れ」「6.1教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」で記述してください。

○学則やWEB上で公表されている理念・目的の内容と、記述いただいた理念・方針の内容が若干違います。

○学科ごとの目標、学科に共通する目標を設定されていることは評価されます。

○周知については大変難しい課題ですが、有効性を測る方法を検討され、継続した努力と検証に期待します。

○理念・目的はWEB上でも公表されていますので、これについても触れておいてください。

○小項目0.0.3の現状説明においては、「検証している」にチェックが入っていますが、記述内容は定期的な検証は行っていない、となっています。整合性が取れていません。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理念と目的を明示し、それを共有化することは重要です。また、理念や目的に基づくアドミッション・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーを策定することは重要です。これらに関して一定の成果が上がっていることは評価できます。さらなる努力が期待されます。

・文学部は扱う範囲が広いので、学科別での理念・目的の確認は評価できます。小項目0.0.2、0.0.3は今後とも継続的審議が望まれます。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

##### ○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

##### ○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 理念と目的を共有するため、学生の授業評価のアンケートに際して、このこと認識状況をリサーチする項目を加えたい。理念目的は、学則の総則および文学部の理念・目的を十分に勘案しそれらを反映させて本報告に記載したものである。なお、文学部の理念・目的はWEB上でも公開している。